利尻研究 (28): 11-12, March 2009

アオイガイ（カイダコ科）の礼文島における記録

船木　梓[1)]・佐藤雅彦[2)]

[1)] 〒097-1111　礼文郡礼文町大字船泊村字大備

[2)] 〒097-0311　北海道利尻郡利尻町仙法志字本町　利尻町立博物館

A Record of a Paper Nautilus, *Argonauta argo*, from Rebun Island (Argonautidae)

Azusa Funaki[1)] and Masahiko Satō[2)]

[1)]Funadomoari, Rebun Is., Hokkaido, 097-1111 Japan

[2)]Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

Abstract. A shell of a paper nautilus, *Argonauta argo*, was picked up on the coast near the port of Funadomari, northern area of Rebun Island. This is the northernmost record of stranded paper nautiluses in Japan.

利尻礼文両島には，対馬暖流により日本海から運ばれてくる南方系の生物がこれまでも度々報告されてきたが（三保・佐藤，2000; 中田・佐藤，2000; 佐藤，2001），これまで筆者らの知る限り同島においてアオイガイの漂着が報告された例はまだない．筆者らの一人である船木は2006年の夏にアオイガイの貝殻を偶然，礼文島北部の浜で拾う機会を得たので以下にその詳細を報告する．

報告に先立ち，アオイガイの漂着について様々な資料やご助言をいただいた志賀健司さん（いしかり砂丘の風資料館），礼文での漂着についての情報をいただいた石川昭代さん（礼文町），本誌への投稿をすすめてくださった大野陽子さん（日本野鳥の会道北支部）に心から感謝の意を表す．

2006年の夏，発見者である船木は礼文町船泊村の大備地区の砂浜を散策中，防波堤（船泊漁協冷凍工場近く）の側，波打ち際から約５m陸側のところで砂に埋まっている見慣れない貝に気付いた（図１）．貝殻は縦に埋まっており，外縁部の突起が僅かに砂から出ている状態であった．不思議なその形のため掘り出してみたところ，薄い殻の中には濡れた砂が詰まっており，この浜に漂着後，しばらく日数がたっているように思われた．礼文島では見かけない貝であるため掘り出された貝殻は洗浄され，そのまま船木宅にて保管されることとなった(図２)．この貝殻が発見された年月日は残念ながら記録されておらず，2006年の７月または８月と発見者の船木は記憶しているのみである．なお貝殻の計測値

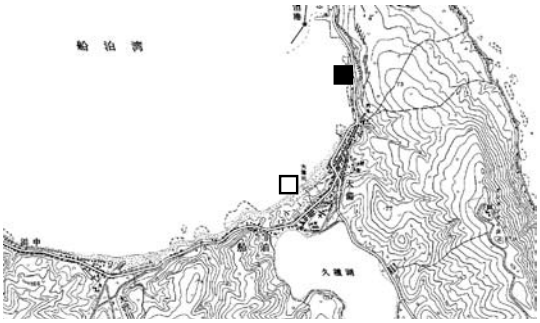

Figure 1. Map of the Bay of Funadomari. The black square shows the locality where the shell of *Argonauta argo* was picked up by one of authors, A. Funaki. The open square shows the locality where Ms. Ishikawa found another big one. Base map is 1:25,000 digital map of Wakkanai published by Geographical Institute of Japan.

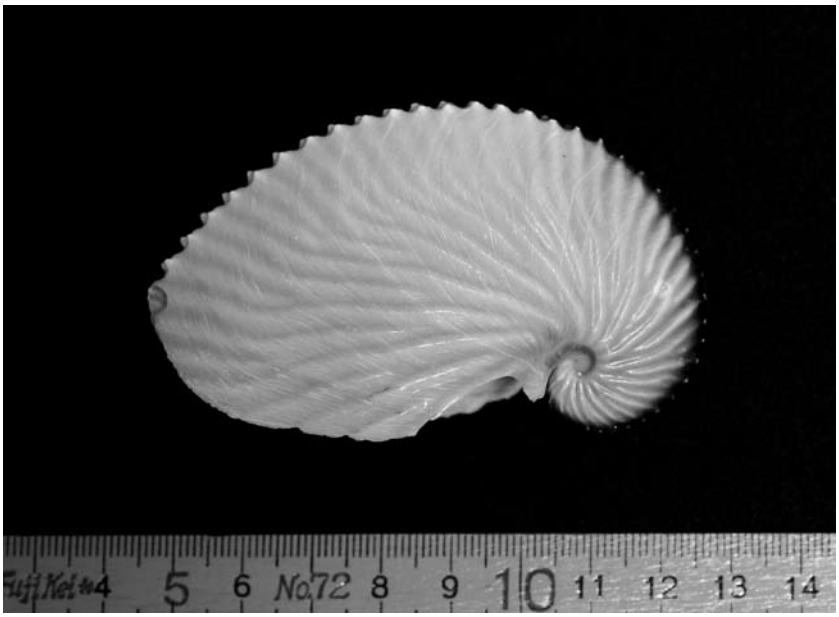

Figure 2. A shell of *Argonauta argo* collected by A. Funaki at Funadomari, Rebun Island.

は以下のとおりである（計測値は突起を含めた最大値を示す）；殻長 79 mm，殻幅 32 mm，殻高 48 mm，重量 3.3 g．その後，貝殻の存在が気になるものの，なかなか図鑑などで確認する機会もないまま 2008 年を迎えた．同年 2 月，知人の大野陽子さんの勧めもあり，貝殻の写真と手紙が筆者の一人である佐藤まで送られ，アオイガイであることが初めて確認された．

その後の船木の聞き取り調査によれば，やはり 2006 年の夏頃，最初の発見場所から 500 m程離れた石や貝殻が多く打ち寄せられている海岸において石川昭代さんらによって 20 ～ 30cm ほどの大きさのアオイガイの貝殻が目撃されていた．石川さんらは見たこともない貝殻を非常に気味悪がり，散歩の度に見かけるこの貝殻を蹴り飛ばしているうちに，いつのまにかそれらの貝殻は見られなくなってしまったとのことであった．

志賀（2007a; 2007c）によると 2005 年と 2006 年には石狩湾岸におけるアオイガイの大量漂着が確認されており，2005 年の漂着地点としては瀬棚，岩内，銭函，石狩，網走，斜里のほか，道北北部としては枝幸が報告されている（鈴木，2006）．2006 年に発見された礼文産の貝殻もこれら一連の大量漂着に関連するものと思われた．道北北部におけるアオイガイの漂着例はまだまだ少なく，今後もその漂着に着目していく必要があろう．

参考文献

三保尚志・佐藤雅彦，2000．利尻町立博物館所蔵ヘビ標本 5 種の記録．利尻研究，(19): 11-13.

中田　淳・佐藤雅彦，2002．利尻島におけるソデイカの漂着記録．利尻研究，(21): 87-91.

佐藤雅彦，2001．利尻島におけるアカウミガメの漂着記録．利尻研究，(20): 39-41.

志賀健司，2007a．アオイガイ大量漂着の謎．エスチュアリ，(28): 2.

志賀健司，2007b．タコブネ暖流．エスチュアリ，(29): 2.

志賀健司，2007c．北海道石狩湾岸におけるアオイガイの大量漂着．漂着物学会誌，5: 39-44.

鈴木明彦，2006．北海道石狩浜へのアオイガイの漂着．ちりぼたん，37(1): 17-20.